



2019.4.19

ブリッジの名著訪問の第 3 回として H.W.Kelsey による Killing Defence at Bridge, 1966 を紹介しましょう。この本は発売された当時、日本でもブリッジ界に衝撃を与え、多くのプレイヤーのディフェンス能力の飛躍的向上に寄与したと考えられる本です。この著者は他にも多くの本を出しており日本でも多くのファンを集めています。

この本は百数十題の問題が出されていて、ディフェンダーになったとしてどうすればよいかが出され、次にどのように考えて、どうすればよいかとの回答が出ているものです。その中からひとつ紹介してみましょう。

♠ 10		
♥ K93		
♦ KQ64		
♣ 109742		
♠ Q9543		
♥ AJ6		
♦ A98		
♣ 83		
	S	N
	1 S	1 NT
	3 C	4 C
	4 S	5 C

Wのあなたは、このようなビッドになった時に DA をリードしました。パートナーの E は 3、ディクレアラーは 2 をフォローします。次にどうすればよいでしょうか？

見通しはあまりよくないように思える。なぜなら S が 3 エースが無いようには思えない。もし S が A を含む 5 枚クラブならば絶望的である。たとえ 4 枚しかクラブが無くても AK があれば 2 回でトランプを刈りきり、ハートを出してあとは全部取れる。だからパートナーにはトランプ

の Kx があると仮定しなければいけないディクレアラーはトランプのフィネスをするためにはダミーに入らねばならない。ディクレアラーがもう 1 枚ダイヤモンドを持っていれば簡単にダミーに入れることになる。しかしもうダイヤモンドがないとすると、S のディストリビューションは 6-2-1-4 らしく見える。もしそうならパートナーのスペードはシングルトンで、2 度目のスペードをオーバーラフできてディクレアラーはダミーに入れない。だから今スペードを出してオーバーラフの準備をするのが良い。しかしまだ危険がある。パートナーのスペードがアナーカードでない可能性が高い。もしそうならダミーの S10 がエントリーになってしまうかもしれない。もしそうなったらダイヤモンドでハンドのハートをディスカードされて 6 メークされてしまう。それを防ぐには第 2 トリックで SQ をリードしなければいけない。

全部のハンドは次のようになっていた：

♠ 6
♥ 108742
♦ J10753
♣ K3
♠ AKJ872
♥ Q5
♦ 2
♣ AQJ6

SA に取られて、ハートが出てきたら、直ちに上がってスペードを出せばパートナーは CK でオーバーラフでき、ダウンである。

この本はこのようにディフェンスのときに、どのような筋道でものを考えるかを教えてくれる画期的な教科書です。今日本のトッププレイヤーになった多くの人達は、この本によってディフェンスが上達したものでした。